

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

ダイバーシティが牽引する 地域活性化とイノベーション

～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会～
令和6年度事業報告書





Contents

◆ ごあいさつ	・ 国立大学法人山梨大学 学長 ・ 国立大学法人山梨大学 理事 (男女共同参画・特命) ・ 国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室長 ・ シミックホールディングス株式会社 COO ・ 株式会社はくばく 取締役管理本部長	中村 和彦 … 2 小林 明 志村 結美 大石 圭子 … 3 田邊 征治
◆ 事業概要	・ 事業の目的 ……………	4
	・ 実施体制 ……………	6
◆ 令和6年度 主な実施内容		7
◆ 活動報告		
(1)ダイバーシティ研究環境整備		
・ クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容		9
・ ダイバーシティマネジメント研修会		10
・ 山梨大学男女共同参画講演会		11
・ 【山梨大学】 キャリアアシスタント (CA) 制度		12
産休・育休からの復帰支援制度		13
女性研究者に対する論文投稿費と英文校閲費支援制度		
保育園との連携		14
ワークライフバランスに関するアンケート調査		15
(2)女性研究者の研究力向上とリーダー育成		
・ 共同研究		20
・ 次世代リーダー育成企画 女性社長対談		21
・ スキルアップセミナー		22
・ 若手研究者育成セミナー		24
・ 女性研究者 研究報告会・交流会		25
・ 【山梨大学】 地域貢献型/若手研究者 研究支援		26
Coの花フェロシップ		27
山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞		28
女性研究者と中村学長との懇談会		29
(3)女性研究者の上位職登用、裾野拡大		
・ News Letterの発行		30
・ 事業実施組織 (Yamanashi Network for Diversity & Innovation) による委員会 第三者機関による事業評価委員会 (合同開催)		31
・ 【山梨大学】 ロールモデル集「ナシダイResearchers」の発行		33
○ 【共同実施機関】 シミックホールディングス株式会社が行った取り組み		34
○ 【共同実施機関】 株式会社はくばくが行った取り組み		35

ごあいさつ

国立大学法人山梨大学 学長

中村 和彦



本学は、令和2年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、共同実施機関であるシミックホールディングス株式会社および株式会社はくばくと連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した事業を展開しています。本事業は、女性研究者の育成を軸におき、企業との共同研究の推進やクロスアポイントメント制度を活用し採用した女性研究者の学術・研究活動への参画を通し、企業等と大学間の活発な人事交流を行い、女性研究者が活躍する環境の構築を通した総合的なキャリアマネジメントの仕組みを織り込んでいることを特徴とします。

本事業における具体的な成果として、大学全体で女性教員増員に向け各学部で新たな目標を設定し、女性教員の増加だけでなく、自然科学系や工学系の女性研究者の積極的な上位職登用が行われました。また、地域活性化につながる研究を進めている女性研究者、あるいは自由な発想で独創的な研究を進める若手女性研究者を対象とした研究を支援することにより、地域に還元しうる研究成果や国際的に評価される研究成果が得られました。さらに、女性研究者を目指す女子学生の増加を図るべく、優秀な博士課程女子学生への支援や女子中高生の理工系学部への進学を支援する取り組みにも力を入れております。

本事業において掲げた「女性研究者の活躍推進と地域社会への女性活躍の牽引」を達成するために、多様な人材が意欲をもって、多様な価値観と自由な発想を源泉とする学術文化の展開に取り組み、その能力を遺憾なく発揮できる環境整備を継続していきたいと考えております。

皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

国立大学法人山梨大学 理事（男女共同参画・特命）

小林 明



本事業は今年で5年目を迎え、大学と企業が連携して行ってきた様々な事業や取組が実を結びはじめ、本学組織の多様性の実現が着実に進んでいると感じております。

本事業の目標である「女性研究者の活躍推進と地域社会への女性活躍の牽引」を目指し、女性研究者・女性技術者の育成のみならず、本学を構成する全ての人材が、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境や体制の実現をより確かなものにできるよう、本学における様々な活動に意欲的に取り組める環境づくりを続けてまいります。

国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室長

志村 結美



大学と企業が連携し、研究環境整備や研究支援を通し地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した本事業は今年で5年目を迎えました。本事業で実施された取組やそれにより得られた成果は、確実に地域社会に伝わりつつあると感じています。

女性研究者や技術者を含む本事業に関わるすべての女性がそれぞれの力をのびやかに発揮できる環境を整え、地域活性化につながる研究を通し、地域における女性活躍の礎を築けるよう、大学と地域社会との連携をより一層深めていく所存です。

シミックホールディングス株式会社 COO

大石 圭子



本事業に共同実施機関として参加しておりますシミックホールディングスは、山梨大学や他の機関とともに、女性研究者育成を中心に据えた産学連携の新たなモデルを構築することを目指しています。特に、クロスアポイントメント制度を活用した人事交流は、女性研究者の能力を最大限に引き出し、地域社会への貢献を実現するための重要なステップです。また、地域貢献型共同研究においては、女性研究者のみならず、大学院博士課程の女子学生も積極的に参画し、次世代の女性研究者育成に寄与しています。こうして女性研究人財の育成と地域産業の活性化など地域貢献を同時並行で精力的に進めている点はとてもユニークで、多くの関係者のみなさまから高い評価をいただいているところです。企業が社会貢献を果たしていくには、企業活動を支える人財ほど、重要なものではありません。ダイバーシティの理念のもと、大学を中心とした研究機関で成長し、ビジネスや研究の現場で生き生きとした様子で活躍する人財が増えていく。今後も、弊社はさまざまな機関と手を取り合いながら、女性研究者の活躍を支援し、地域社会にも貢献する研究環境の整備に積極的にかかわってまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社はくばく 取締役管理本部長

田邊 征治



2024年は「失われた30年」からの脱却とさらなる成長と持続可能な社会への移行を模索する年でした。円安による輸入材料・エネルギーの高騰や慢性的な人手不足により物価高騰や賃金上昇が恒常化しつつある点。インバウンド需要の急激な回復と半導体産業やデジタル技術への積極的な投資など、サプライチェーンの最適化や新たなビジネスチャンスの創出を目指していることが挙げられます。

生活者向けのビジネスがメインの当社にとって、マーケットインの発想でビジネスを進める上では女性の活躍は不可欠です。持続的に個の力と組織力を強化し、収益力を高めるためには組織としての多様性、公平性、包括性が重要となります。

引き続きこの事業への参加を通じて、さらなる女性活躍の機会を創出することに貢献していきたいと思っております。

事業概要

事業の目的

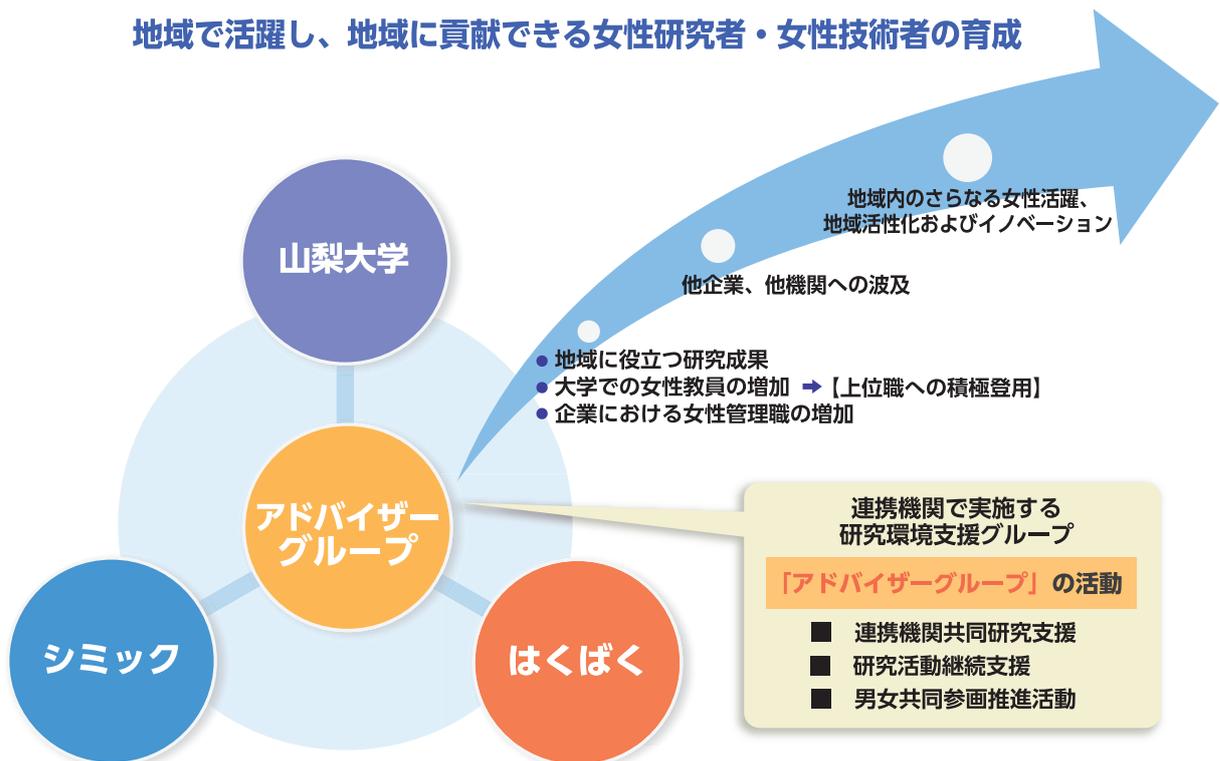
令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。山梨大学、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばくの三機関が連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した各種の取り組みを進めます。

本事業の骨子は、クロスアポイントメント制度による大学と企業内の女性研究者の活発な人事交流の促進と、女性研究者を代表とする共同研究と地域貢献型研究への支援です。

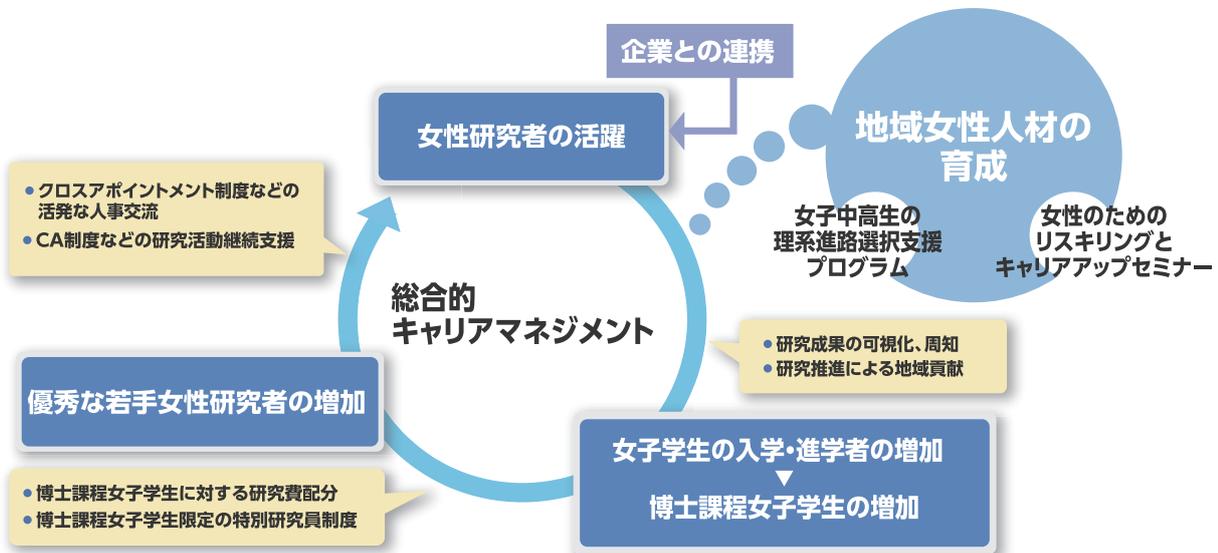
特に共同研究の推進においては、「アドバイザーグループ」により女性研究者の研究活動を確実にサポートします。また、共同研究への大学院女子学生の積極的な参加を促すとともに、博士課程へ進学する女子学生への各種支援も用意して、地域を担う若手女性研究者の活躍による、地域イノベーションモデルの創造を目指します。

地域での取り組み

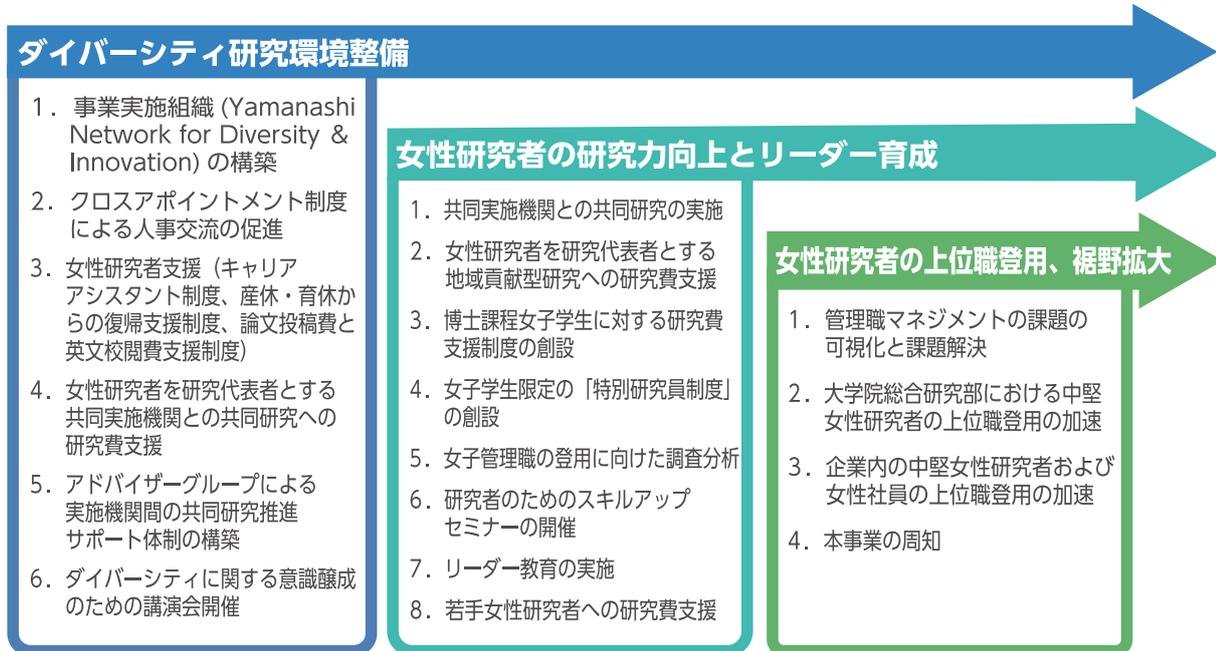
地域で活躍し、地域に貢献できる女性研究者・女性技術者の育成



総合的キャリアマネジメントの循環



環境支援と整備

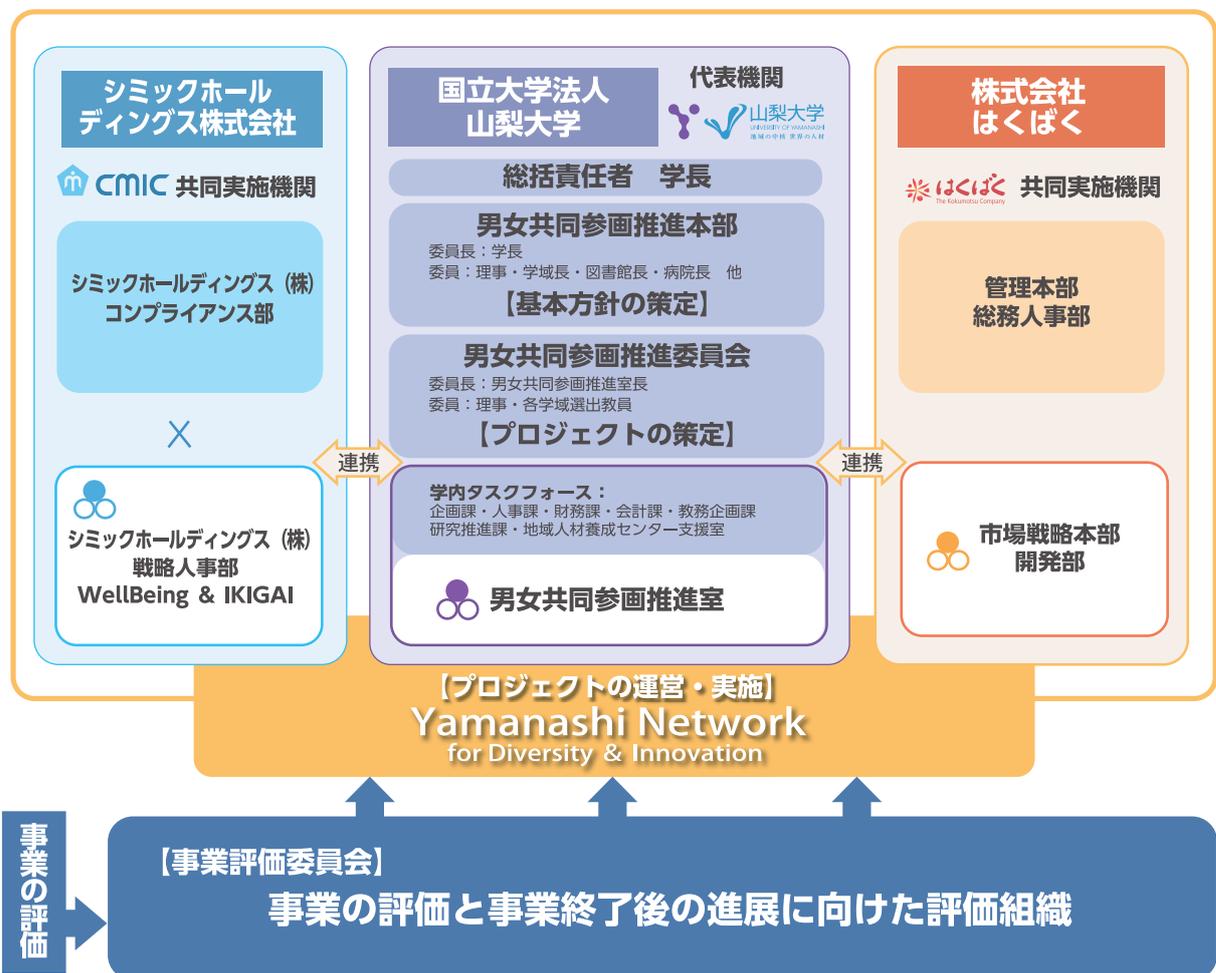


実施体制

本事業では、代表機関である山梨大学が、医薬品の研究開発や付加価値向上などの各種支援を国内外で広く手掛けているシミックホールディングス株式会社、穀物販売を通じ人々の健康と豊かな食生活を実現することを理念とする山梨県内企業の株式会社はくばくと連携して、女性の能力を生かしたイノベティブな研究推進環境の創設による地域活性化のモデル作りを目指します。

「Yamanashi Network for Diversity & Innovation」を通じて、関係機関による連携・協力体制を構築しプロジェクトを牽引します。

連携体制



◆ 令和6年度 主な実施内容

月 日	主 な 実 施 内 容
4月	クロスアポイントメント教員（医学域2名、生命環境学域1名）継続
4月 9日	【シミックホールディングス㈱】 子宮頸がんの現状とこれからについて学ぶメディア向けセミナー開催
5月	【シミックホールディングス㈱】 「ダイバーシティ&インクルージョン」トレーニングを全従業員対象に実施
5月 26日	【㈱はくばく共同研究】学会発表（第78回日本栄養・食糧学会大会）
5月 30日	【シミックホールディングス㈱共同研究】 学会発表（第66回日本小児神経学会学術集会）
6月 25日	共同研究アドバイザーグループ定例会
6月 30日	クロスアポイントメント教員（生命環境学域1名）退職
6月	News Letter Vol.15発行
7月 1日	クロスアポイントメント教員（生命環境学域1名）採用
7月 1～19日	【山梨大学】ワークライフバランスに関するアンケート調査
7月 12日	【㈱はくばく】リテラシー&マネジメントスキルUPセミナー
8月 6日	第1回事業評価委員会及び第1回事業実施委員会 合同開催
8月 27日	ダイバーシティマネジメント研修会
8月	【シミックホールディングス㈱】 グループ内横断のダイバーシティ&インクルージョン、RO-DE&I (Respect each Other, Diversity, Equity & Inclusion) の活動紹介と交流
9月	News Letter Vol.16発行
9月	【㈱はくばく】 査読付雑誌『npj Science of Food』（8:No.69 (2024)) 掲載
10月 7日	共同研究アドバイザーグループ定例会

10月	17日	学生サポートセンター共同企画「LGBTQセミナー」
10月	28日	クロスアポイントメント教員（医学域） 全学共通教養科目 教養教育科目 健康科学分野講義
10月	30日	【山梨大学】 Sthapit Niva工学域研究助教（若手研究者研究支援） 国際会議ICLEE2024 優秀発表賞受賞
10月		【株式会社はくばく】 査読付雑誌『Frontiers in Nutrition』（11:1434150(2024)）掲載
11月	14日	第1回スキルアップセミナー「英語論文の書き方オンラインセミナー」
11月	15日	次世代リーダー育成企画「女性社長対談」
12月	1日	クロスアポイントメント教員（工学域1名）採用
12月	9日	【山梨大学】 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞表彰式 女性研究者と中村学長との懇談会
12月	16日	共同研究アドバイザーグループ定例会
12月	17日	女性研究者 研究報告会・交流会
12月	18日	山梨大学男女共同参画講演会
12月		News Letter Vol.17発行
1月	21日	若手研究者育成セミナー「リアルワールドデータの種類と活用の実際」
1月	24日	第2回スキルアップセミナー 「AIを活用して英語論文を作成する日本語話者にとっての課題とその対策」
2月		【山梨大学】 ロールモデル集「ナシダイResearchers Vol.12」発行
2月	21日	共同研究アドバイザーグループ定例会
3月	4日	第2回事業実施委員会
3月		News Letter Vol.18発行
3月		令和6年度事業報告書発行

連携して行った取り組み

● クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容

本取組は、共同実施機関または他の企業と大学間で行う共同研究の推進者として、専門分野や能力によって大学の一部講義の担当者として等、大学と企業内の活発な人事交流の促進を図ることを目的としました。

本制度を活用することで、山梨大学女子学生が複数の企業の女性研究者のロールモデルと出会う機会が得られ、副次的に女子学生の大学院進学や企業の研究職への就職の促進が期待されます。また、クロスアポイントメント制度を活用し採用された企業女性研究者においては、大学における活動を通し、管理職などの上位職への育成の機会となることが期待されます。

令和6年度は、共同実施機関からの3名の研究者を引き続き雇用するとともに、民間企業および国立研究機関から新たに2名の研究者が本学教員として勤務しました。各クロスアポイントメント教員は、共同研究の推進、講義、学内研究推進サポート等、様々な分野で活躍しました。

企業	氏名	所属、活動内容
株式会社はくばく	丸山 聡子	株式会社はくばく 市場戦略本部開発部研究開発課所属 生命環境学部地域食物科学科食品栄養学研究部門と株式会社はくばくで行う共同研究の推進を行う（令和6年6月30日山梨大学退職）
シミックホールディングス株式会社	菊池 桜	CMIC Trust株式会社 Biz Dev 所属 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究の推進を行う 生命環境学域における授業のゲストスピーカーとして、学生と人事交流を図る
シミックホールディングス株式会社	真島 奈都美	シミック株式会社 臨床事業本部所属 日本CRO協会CRA 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究と臨床研究連携推進部において本学の臨床研究の推進を行う 生命環境学域における授業のゲストスピーカーとして、学生と人事交流を図る
株式会社JTBコミュニケーションデザイン	松原 可南子	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 総合企画部 事業企画局所属 生命環境学部地域社会システム学科において、講義の一部を担当し、研究を行う（令和6年7月1日山梨大学採用）
国立研究開発法人産業技術総合研究所	小島 桃子	国立研究開発法人産業技術総合研究所 工学計測標準研究部門所属 工学域機械工学系に所属し、工学科及び工学専攻の講義の一部を担当し、研究を行う（令和6年12月1日山梨大学採用）

(1)ダイバーシティ研究環境整備

● ダイバーシティマネジメント研修会

- 日時:** 令和6年8月27日 (火) 14:00~15:30
会場: 山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
(Teams同時配信)
主催: 山梨大学男女共同参画推進室
共催: シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく
参加者: 山梨大学および山梨県立大学の教職員、
シミックグループおよび
株式会社はくばくの社員
154名 (会場36名、Teams配信118名)
講師: 早稲田大学文学学術院 教授
森山 至貴 (もりやま のりたか) 氏
題目: 言葉のちからとダイバーシティマネジメント
次第: 開会挨拶
学長挨拶
講演者紹介
講演
質疑応答
閉会挨拶

山梨大学男女共同参画推進室 令和6年度ダイバーシティマネジメント研修会
山梨県立男女共同参画推進センターVIAあおぞら 出前講座

言葉のちからと ダイバーシティマネジメント

誰もが不安や抑圧を感じず、それぞれの持ち味を活かして働ける職場にしたい。
そのための第一歩が、職務上のコミュニケーションを健全なものにすることです。
本講座では、言葉遣いをより公正で誠実なものに代えていくための発想とコツについて考えます。



8.27 Tue
14:00 - 15:30

講師 **森山至貴氏**
もりやまのりたか
早稲田大学文学学術院 教授

会場: 山梨大学甲府キャンパス
大村記念ホール (オンライン同時配信)
定員: 会場 80名 オンライン100名
対象: 山梨大学・山梨県立大学教職員 (研修参加者・研修生を除く)
株式会社はくばく・シミックグループ社員
申込: 二次元コードもしくは、URLから要事前申込

1982年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学研究科助教。早稲田大学文学学術院専任講師、同准教授を経て現職。著書に、「『アイコミュニティ』の社会」「LGBTを強みとく：クィン・スタディーズ入門」「あなたを同じとある「まなひ言葉」：10代から知っておきたい」がある。

申込締切: 8/25
<https://forms.office.com/r/GM9s629Q9w>

主催 問い合わせ 山梨大学男女共同参画推進室 TEL 055-220-8350 MAIL danjo@yamanashi.ac.jp 共催 シミックホールディングス株式会社・株式会社はくばく YAMANASHI NETWORK FOR DIVERSITY & INCLUSION



感想

- ・それと気づかずに行っていたことや、指摘されたのと同じ内容で行っていたことが明らかになり、自分の改善すべき点を意識することが出来ました。
- ・大変勉強になりました。想像力を働かせて言葉を選んでいくべきだと感じました。
- ・シンプルに問題に対する答えではなく、その背景にあることが問題でそこを考える、問題意識を持つきっかけになり、参加して良かったと思う。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

● 山梨大学男女共同参画講演会

- 日時：**令和6年12月18日（水）14：00～15：30
会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
（Teams同時配信）
主催：山梨大学男女共同参画推進室
共催：シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく
参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばくの社員
84名（会場39名、Teams配信45名）
講師：エクシオグループ株式会社
甲信支店 支店長
坂井 英子（さかい えいこ）氏
題目：ダイバーシティ推進の必要性
～誰もがいきいきと働くために～
次第：開会挨拶
学長挨拶
講演者紹介
講演
質疑応答
閉会挨拶

主催：山梨大学男女共同参画推進室
共催：シミックホールディングス株式会社・株式会社はくばく

2024 **12.18** [水] 14:00-15:30
会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
（オンライン同時配信）
対象：山梨大学・山梨県立大学教職員
シミックグループ・株式会社はくばく社員

ダイバーシティ推進の必要性
誰もがいきいきと働くために

講師
坂井 英子 氏
エクシオグループ株式会社
甲信支店 支店長

東洋経済出版
大学卒業後、株式会社信和エクシオ（現エクシオグループ株式会社）に入社。経営事業の拡大・第三事業部を創設後、2017年に初代ダイバーシティ推進室長に就任し、男性が多い職場の中で、女性活躍をはじめとしたダイバーシティ&インクルージョンを社内外へ推進。2021年7月から現職。
山梨経済同友会 女性活躍パートナー部会 部会長

申込 二次元コード、又はURLから簡単な申込
<https://forms.office.com/SjW6dLnyDQ>
申込締切：12/16

お問い合わせ
山梨大学男女共同参画推進室
055-220-8350
danjo@yamanashi.ac.jp



感想

- ・ダイバーシティはとても大切な事であるが、まだまだ意識改革が必要であると感じた。
- ・新しい「3つのK（期待して、機会を与えて、鍛える）」を頭におきながら仕事をしていきたいと思えます。
- ・人口減少、なぜ経営戦略が必要なのかが理解できました。皆が理解することが大事である事、私も部下が産休明けで戻るので、よく対話をしていきます。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

山梨大学が行った取り組み

● キャリアアシスタント (CA) 制度

ライフイベント（※）中の研究者（※）は、研究活動のパワーダウンが懸念されます。山梨大学では、そうした時期にある研究者に対し、研究サポーターとしてキャリアアシスタント（以下「CA」という）を配置することで、ライフイベントと研究活動の両立を支援する制度を運用しています。

※令和6年度から、支援対象者となるライフイベントの定義に【育児（中学校卒業までの子の養育）】および【不妊治療】を追加しました。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、共働き世帯又は一人親家庭の者でライフイベント中の者、ライフイベント中の配偶者がいる者、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。

【CAによる支援内容】

文献検索、データ整理・入力、図表作成、資料収集、実験補助、その他研究業務についての補助。

※推進室では「ライフイベント」及び「研究者」を以下のように定義しています。

ライフイベント…妊娠、出産、育児（中学校卒業までの子の養育）、介護（2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族の生活支援や世話）、不妊治療を指します。

研究者…常時勤務する教授・准教授・講師・助教・研究員など、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の研究者番号を付与されている者。

● 令和6年度CA制度 利用者

	研究者	CA
前期	19名	24名
後期	15名	25名

＼利用した研究者からの声／

- ・ルーチンワークの部分をCAに担ってもらい、タスクが減り大変助かりました。
- ・学生が研究の面白さを実感できる機会として、大きな役割を果たしていると感じています。
- ・帰宅時間を早め、保育園の送迎や家事にあてることができました。
- ・子供の学校行事、急な病欠等に柔軟に対応することができました。
- ・配偶者や子供と話す時間が増え、細かな変化に気づく余裕ができました。

＼CA学生からの声／

- ・研究を本格的に始める前から、基礎を身につけることに繋がりました。
- ・進路選択をより意識した生活ができました。
- ・毎日通う大学で学びながら働くことができるため、時間を効率よく使えて良かったです。
- ・先生がこちらの提案を受け入れてくださり、歩み寄っていただき仕事がしやすかったです。
- ・就職希望でしたが、自分自身も研究を行いたいと思うようになり、院に進学することにしました。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

● 産休・育休からの復帰支援制度

山梨大学では、「産休・育休からの復帰支援制度」を設けています。

この制度は、出産・育児によって研究活動が中断した研究者が、職場復帰を果たし、研究の停滞を取り戻すために、復帰後における研究活動及びそれに伴う経済的負担に対して支援することを目的とするものです。

※令和6年度から、支援対象者に

【通算2ヶ月以上の育児休業を取得し職場復帰して2年以内の男性研究者】を追加しました。

【支援対象者】

支援の対象者は、本学に在職する研究者のうち、教授・准教授・講師・助教の職位にある者で、産後の特別休暇または育児休業から職場復帰して2年以内の女性研究者および通算2ヶ月以上の育児休業を取得し職場復帰して2年以内の男性研究者とする。

【助成金の対象】

助成金は、支援対象者が実施する研究活動に係る経費（物品費、旅費、謝金）に充てるものとする。

【助成額】

助成額は、10万円とする。ただし、予算の状況により助成額が減額される場合がある。

● 復帰支援制度 利用者

令和6年度 2名

● 女性研究者に対する論文投稿費と英文校閲費支援制度

山梨大学では、女性研究者のための「論文投稿費と英文校閲費支援制度」を設けています。

この制度は、女性研究者の論文作成に伴う経済的負担の支援を行うことを目的とするものです。

※令和6年度から、支援対象者を

【ライフイベント中の女性研究者】から【本学に在籍する女性研究者】に変更しました。

【支援対象者】

本学に在職する女性研究者のうち、筆頭著者として論文を作成する者としします。

【支援内容】

助成額は、論文一編あたり上限5万円とし、助成金の用途は論文投稿費（英文校閲費を含む）とする。

● 論文投稿費と英文校閲費支援制度 利用者

令和6年度 5名

(1)ダイバーシティ研究環境整備

●保育園との連携

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園」と協定を結んでおります。本学甲府キャンパスに勤務・通学する教職員および学生（ただし、附属学校園に勤務する教職員及び医学部学生を除く）は、宮前保育園が実施する一時預かり保育を特別料金で使用することができます。また、学会等の開催の際に必要な託児所設置に関わる保育士派遣制度の利用も可能です。

○連携保育園

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園（甲府市岩窪町379）
宮前保育園子育て支援センターShell&Beans

【宮前保育園 利用回数（令和6年4月～令和7年1月）】

令和6年度	一時預かり保育	病後児保育
4月	4回	令和5年度末で 終了
5月	3回	
6月	4回	
7月	2回	
8月	7回	
9月	3回	
10月	4回	
11月	10回	
12月	7回	
1月	10回	

共同保育所みかげの森との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「株式会社創街」と企業主導型保育施設の共同利用に関する協定を結んでおります。本学に在籍する教職員は、同社が設置した「共同保育所みかげの森」を従業員枠で利用することができます。

○連携保育園

共同保育所みかげの森（南アルプス市野牛島1828-63）

アソビスイッチ保育園との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、令和5年度に「株式会社アソビスイッチ」と企業主導型保育所共同利用契約を締結し、同社が設置した「アソビスイッチ市場保育園」を提携企業枠で利用できるようになりました。

○連携保育園

アソビスイッチ市場保育園（甲府市国母6-6-8）

●ワークライフバランスに関するアンケート調査

調査概要

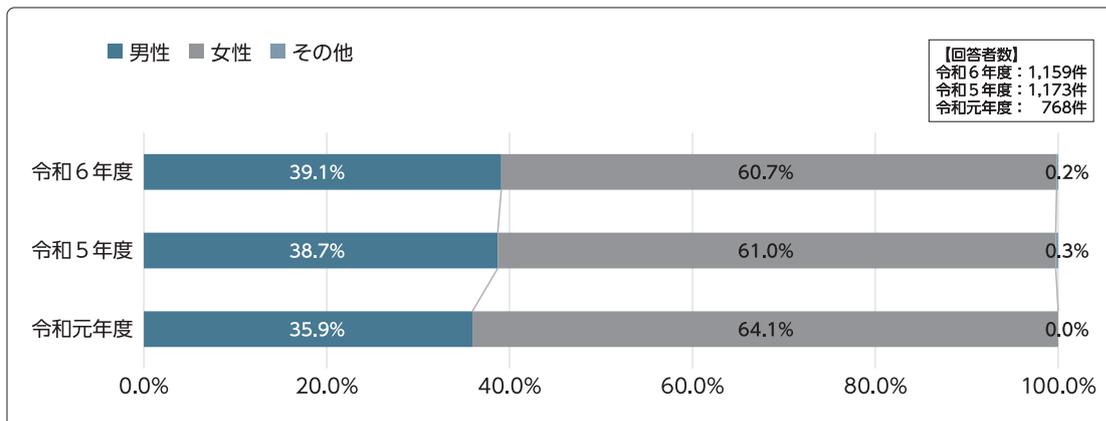
- 調査期間：令和6年7月1日（月）～7月19日（金）
調査方法：学内イントラネット「申請・調査支援システム」より入力
調査対象者：山梨大学教職員（附属学校、病院含むシステムに登録のある教職員）3,322人
回収率：34.9%（1,159件/3,322件）（前年比：1.2%減）
調査目的：教職員のライフイベントやワークライフバランスに関する課題や要望を抽出し、男女共同参画推進に係る取組を充実させる
- 調査内容：
- (1) 回答者について
 - ① 職種、②性別、③勤務形態、④所属、⑤年齢、⑥本学の勤務年数、⑦勤務体制
 - (2) ワークライフバランスについて
 - ①自身のワークライフバランスに対する満足度、②年次有給休暇の利用状況、③17時以降の会議の出席頻度、④ワークライフバランスの実現に必要な取組
 - (3) 育児・介護について
 - ①育児・介護状況、②育児中の教職員に対する風土、③育児と仕事の両立に必要な支援、④介護中の教職員に対する風土、⑤介護と仕事の両立に必要な支援
 - (4) 男女共同参画推進室の活動について
 - ①認知されている男女共同参画推進室活動、②男女共同参画推進室活動への期待

結果（一部抜粋）

(1) 回答者について

性別

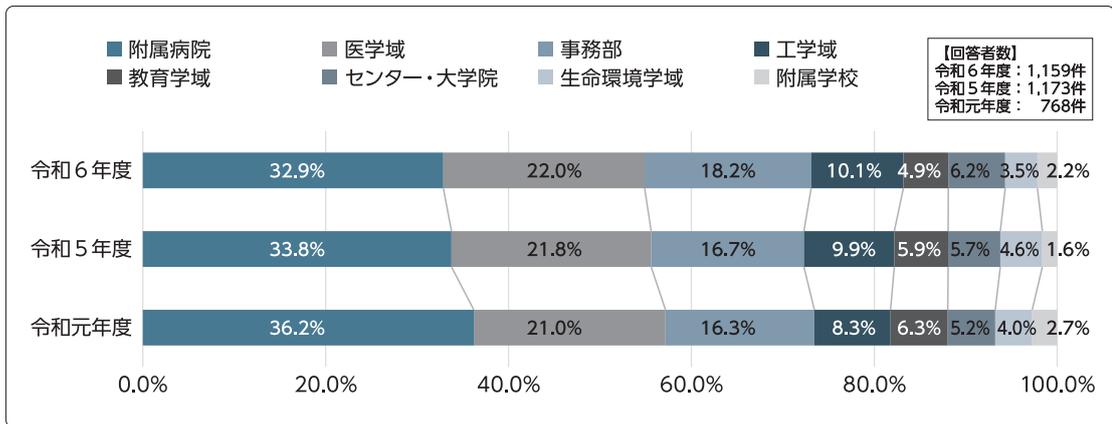
* 令和6年度における回答者の性別比率は、男性が39.1%、女性が60.7%であった。回答者の性別比率について、令和元年度から5%以上の大きな変化は認められなかった。



(1) ダイバーシティ研究環境整備

所属

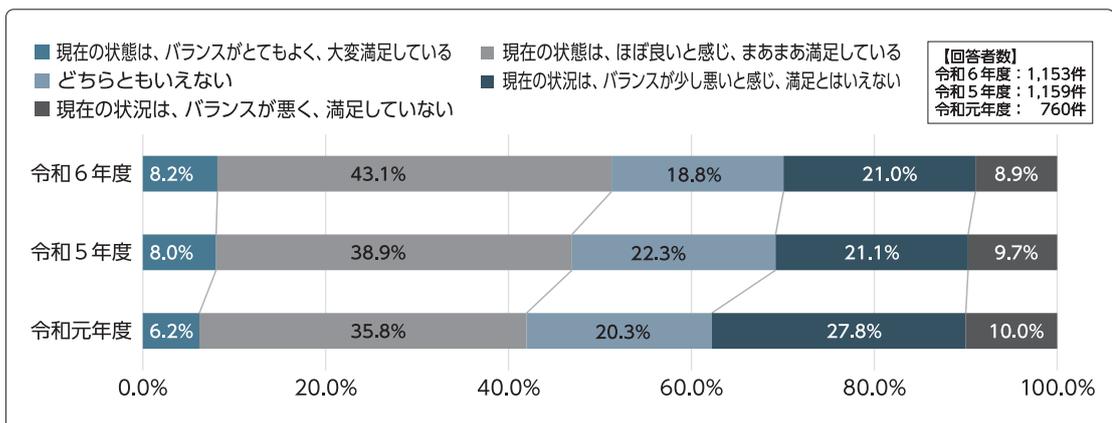
* 回答者の所属は、附属病院が32.9%と最も多く、次いで医学域が22.0%、事務部が18.2%であった。回答者の所属の比率について、令和元年度から5%以上の大きな変化は認められなかった。



(2) ワークライフバランスについて

自身のワークライフバランスに対する満足度

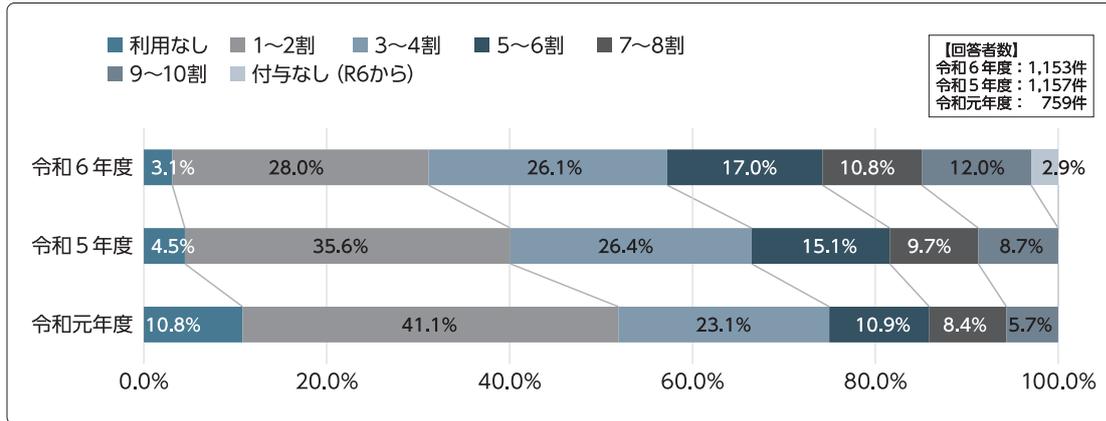
* ワークライフバランスの現在の状態が「バランスがとてもよく、大変満足している」および「ほぼ良いと感じ、まあまあ満足している」と回答した教職員の回答比率は増加傾向にあった。特に「ほぼ良いと感じ、まあまあ満足している」と回答した教職員（43.1%）は令和元年度（35.8%）から7.3%増加した。



(1) ダイバーシティ研究環境整備

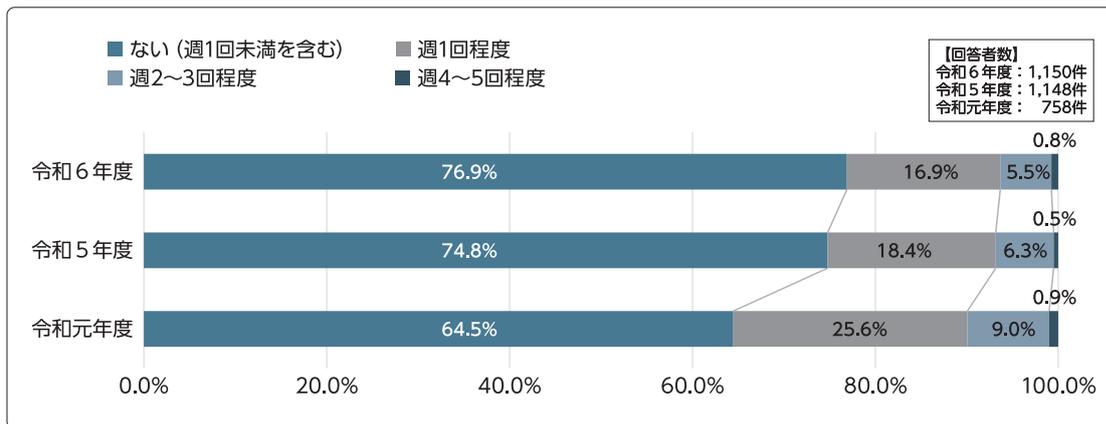
年次有給休暇制度の利用状況

- * 令和6年度の年次有給休暇制度の利用は、「1～2割」が最も多く28.0%であり、令和元年度から経時的に減少していることが示された。
- * 5割以上（「5～6割」「7～8割」「9～10割」を合算）の利用は39.8%であり、令和元年度から経時的な増加が認められた。



17時以降の会議の出席頻度

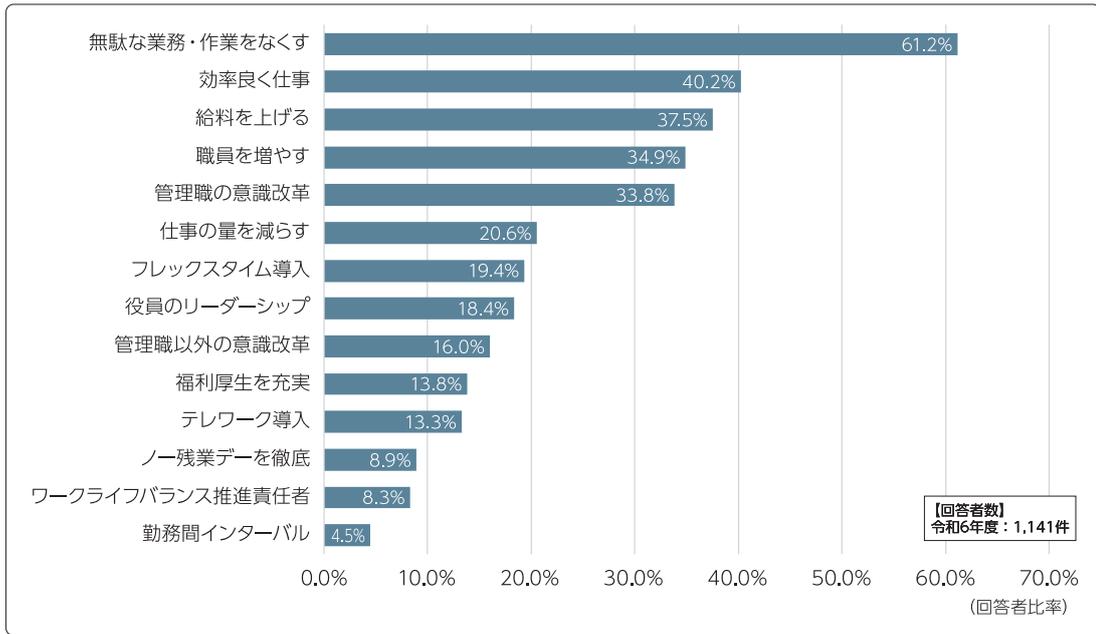
- * 令和6年度の17時以降の会議の参加については、「参加がない（週一回未満）」が最も多く76.9%であり、令和元年度から経時的な増加が示された。
- * 週1回以上（「週1回程度」「週2～3回程度」および「週4～5回程度」を合算）の教職員は23.2%であり、令和元年度から経時的な減少が示された。



(1) ダイバーシティ研究環境整備

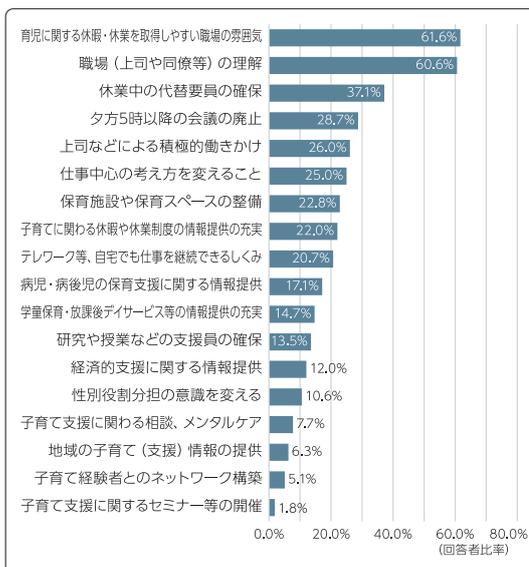
ワークライフバランスの実現に必要な取組

- * 複数回答において、必要な取組として「無駄な業務・作業をなくす（61.2%）」が最も多く、次いで「効率よく仕事」、「給料を上げる」が回答された。
- * その他自由記述において、「年次有給休暇日数の増加」、「時間外も職場からメールが送信されてくるので、良い面もあれば休息が十分とれにくい」、「業務内容の見直しと整理、DX受付体制の改革」等多くの意見が寄せられた。

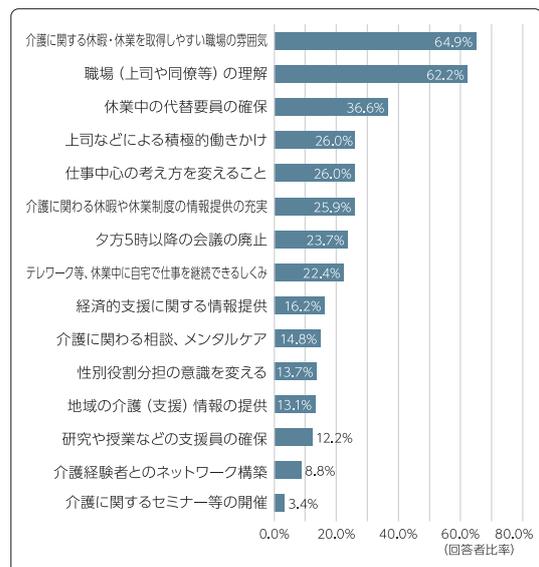


(3) 育児・介護について

育児と仕事の両立に必要な支援



介護と仕事の両立に必要な支援



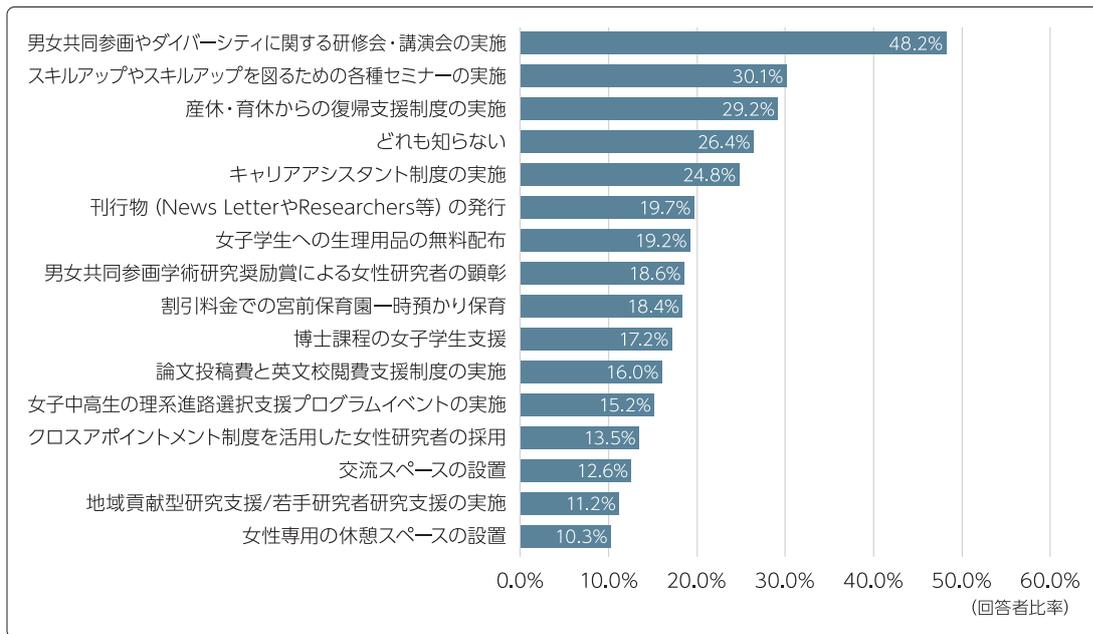
(1) ダイバーシティ研究環境整備

- * 育児および介護と仕事の両立に必要な支援として、育児・介護ともに、「休暇・休業を取得しやすい職場の雰囲気」、「職場の理解」、「休業中の代替要員の確保」が挙げられた。
- * 一方、育児中の教職員においては、「夕方5時以降の会議の廃止」が多く、送迎や子供の生活リズムに関わる部分として配慮の必要性が示された。
- * その他、自由記述において「休暇日数の増加」や「介護に対する意識醸成」「休業者の業務を負担する職員への配慮支援」等、多くの意見が寄せられた。

(4) 男女共同参画推進室の活動について

認知されている男女共同参画推進室活動

- * 男女共同参画推進室の活動として、男女共同参画やダイバーシティに関する研修会・講演会の実施が最も認知されており（48.2%）、次いで、スキルアップやスキルアップを図るための各種セミナーの実施、産休・育休からの復帰支援制度が認知されていた。
- * 一方、交流スペース、休憩スペースの設置や地域貢献型/若手研究者研究支援等の研究支援についてはあまり知られておらず、今回記載した取組のどれも知らない回答者が26.4%と多いことが判明した。



まとめ

令和元年度からの継続した調査により、本学におけるワークライフバランスに影響を与えうる因子（課題）の一部を可視化するとともに、ワークライフバランスの実現に向け必要な取組についても明らかになりつつある。ワークライフバランスの改善を目指し、課題の解決に向け、より具体的な調査・検討を行うとともに、引き続き、学内周知や講演会による意識醸成を図り、教職員の誰もが働きやすい環境の整備の推進に努めたい。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

連携して行った取り組み

●共同研究

本事業では、「女性研究者育成」を連携の中心に置き、産学間の活発な人材交流によって、女性の能力を生かしたイノベティブな研究を推進する環境を創設し、地域人材の育成と産業活性化への貢献を目指しています。

取り組みの一つとして、共同実施機関との共同研究による「女性研究者」の支援を行っており、令和2年度から継続して下記の研究テーマで共同研究を行っています。

【共同研究】

所 属	研 究 者	共同実施機関	研究テーマ
生命環境学域 地域食物科学科	石山 詩織	株式会社はくばく	胚環境操作MEMマウスへの大麦投与によるサイトカインストームの抑制機構の解明
医学域医学科 小児科学講座	加賀 佳美	シミックホールディングス株式会社	発達障害児養育者の健康リテラシー（発達障害リテラシー）が、児の問題行動およびメンタルヘルスに及ぼす影響について
医学域医学科 免疫学講座	石丸 かよ子	シミックホールディングス株式会社	喘息患者気道マスト細胞が示す体内時計リズムと病態との関係

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●次世代リーダー育成企画 女性社長対談

- 日時：**令和6年11月15日（金）
13：30～15：00
- 方法：**Teams配信
- 主催：**山梨大学男女共同参画推進室
- 共催：**シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく
- 参加者：**山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばくの社員 58名
- 講師：**株式会社ドコモCS 山梨支店長
宮崎 順子（みやざき じゅんこ）氏
- タイトル：**「そうだ宮崎さんに、聞いてみよう。」
女性管理職のリアル
～キャリアの築き方とマネジメント～

令和6年度次世代リーダー育成企画
YAMANASHI NETWORK FOR DIVERSITY & INNOVATION

女性管理職のリアル
～キャリアの築き方とマネジメント～

そうだ
宮崎さんに、
聞いてみよう。

11.15 金
13:30~15:00

株式会社ドコモCS 山梨支店長である「宮崎順子氏」をお招きし、キャリアのスタートから管理職までの道のり、職場での成功体験をもとにキャリアの築き方やマネジメントについてお話いただきます。講演後には、参加者の皆さまと意見交換を行う時間も設けます。

Miyazaki Juko
宮崎 順子
株式会社ドコモCS
山梨支店長

開催方法 オンライン開催
対象 山梨大学・山梨県立大学教職員、及び学生
株式会社はくばく・シミックグループ社員
申込 二次元コード、又はURLから要事前申込
申込締切：11/14
<https://www.office.com/j15a2925m>

主催・問合せ 山梨大学男女共同参画推進室
TEL 055-220-8350
MAIL daipo@yamanashi.ac.jp

共催 シミックホールディングス株式会社
株式会社はくばく



感想

- ・自身とは異なる環境にいらっしゃる方のお話を伺えるのが、大変貴重で有意義でした。活躍なさっている方が日頃どのようなことを考えてお仕事をなさっているのか、モチベーションが下がっていた私にとっては良い刺激になりました。
- ・女性の働き方について、従来の男性社会のしきたりなどを継承していくのではなく、いろいろな視点で物事に対応し、いわゆる開拓精神を持って前向きに取り組んでいく力の必要性を強く感じました。今後の働き方の在り方について非常に参考になりました。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●第1回スキルアップセミナー

- 日 時：**令和6年11月14日（木）
14：00～15：00
- 方 法：**Zoom配信
- 主 催：**山梨大学男女共同参画推進室
- 共 催：**山梨大学大学院支援室、
シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく
- 協 力：**ユサコ株式会社
カクタスコミュニケーション株式会社
- 参 加 者：**山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばく社員
76名

講 師：千代 浩之（ちしろ ひろゆき）氏

タイトル：英語論文の書き方セミナー

学術的な文章を書くためのヒント：研究を効果的に発信するためにできること
Language tips for academic writing: Helping you communicate your science

- 内 容：**・論文における各セクション執筆のポイント（時制を含む）
・First draftを執筆する際のtips
・ライティングのスキルを向上させるためのtips

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
主催：山梨大学男女共同参画推進室 共催：シミックホールディングス株式会社・株式会社はくばく

日本語
開催

初級から中級者向け

令和6年度
スキルアップセミナー

英語論文の書き方セミナー

学術的な文章を書くためのヒント：研究を効果的に発信するためにできること
Language tips for academic writing: Helping you communicate your science.

11/14 木

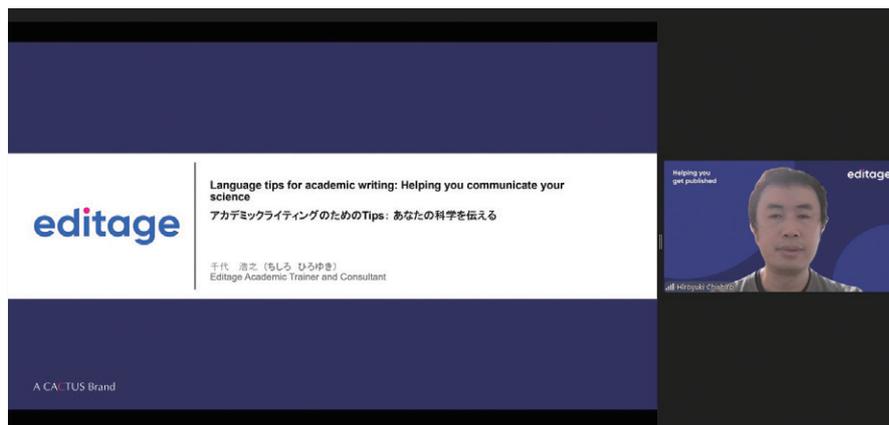
時間 14:00～15:00
開催方法 ZOOM
対象 山梨大学・山梨県立大学教職員、及び学生
株式会社はくばく・シミックグループ社員

協力：ユサコ株式会社
カクタスコミュニケーション株式会社

講師
千代 浩之 氏（ちしろ ひろゆき）
東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータサイエンス専攻特任講師、慶応大学大学院情報理工学系研究科情報理工学系客員講師などを歴任。慶応義塾大学理工学部卒業。研究分野はリアルタイムシステム、オペレーティングシステム、ミドルウェアが含まれており、権威あるジャーナルや会議で複数の論文を発表している。慶応義塾大学で専攻定年後スチューデントを専攻し工学博士号を取得。

申込
二次元コード、又はURLから要事項申込
<https://forms.office.com/22v2mem006>
締切：11/13

お問い合わせ
山梨大学男女共同参画推進室
055-220-8350
danjo@yamanashi.ac.jp



感想

- ・論文執筆全般にわたり重要な内容がコンパクトにまとめられており、また、とても役に立つ内容が含まれていて、受講して良かったです。
- ・復習とともに、新しい発見があり、大変有意義な内容でした。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●第2回スキルアップセミナー／ 第1回DXセミナー

日時：令和7年1月24日（金）
10：40～12：10

方法：Teams配信

主催：山梨大学男女共同参画推進室

共催：山梨大学大学教育・DX推進センター、
国際化推進センター、大学院支援室、
シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく

参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばく社員
123名

講師：京都大学大学院 国際高等教育院
附属国際学術言語教育センター 教授
柳瀬 陽介（やなせ ようすけ）氏

タイトル：AIを活用して英語論文を作成する
日本語話者にとっての課題とその対策

内容：・AIは人間の力を拡張するツールであることを前提とし、英語論文を作成する際に、
日本語話者が気を付けなければならない点について（事例を用いた説明）
・最新の生成AIについての紹介
・「英語学習」のツールとしてのAIの活用について



感想

- ・タイムリーな情報が多く参考になりました。英作文スキル向上にAIを使いこなす意義を理解できました。
- ・文章構成のお話や、生成AIの紹介など、事務職員としても参考になることがあり、大変有益なセミナーでした。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●若手研究者育成セミナー

- 日時：**令和7年1月21日（火）
13：30～15：00
- 方法：**Teams配信
- 主催：**山梨大学男女共同参画推進室
- 共催：**シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：**山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 95名
- 講師：**大正製薬株式会社
医薬事業部門 情報検索室主事
高橋 俊哉（たかはし しゅんや）氏
- タイトル：**リアルワールドデータの種類と活用
の実際
- 内容：**・リアルワールドデータとは何か
定義と種類、関連する個人情報
・リアルワールドデータ活用事例
製薬企業の各部門、大学病院



令和六年度若手研究者育成セミナー

リアルワールドデータの 種類と活用 の実際

1/21 火
13:30~15:00

2015年の個人情報保護法の改正により、本人の同意なくしてパーソナルデータを活用できる「匿名加工情報」が新設されました。これを契機に比較的自由なデータ利用が進み、医療分野においてはリアルワールドデータの分析が大きく加速しています。本セミナーでは、リアルワールドデータとは何か、どのような種類があり、それらを活用した取組がどう活かされているのか、製薬企業や大学病院の事例を交えながら紹介します。リアルワールドデータを初めて見聞きする方にも分かりやすく説明します。

講師 高橋 俊哉 氏 大正製薬株式会社 医薬事業部門 情報検索室主事

開催方法 オンライン開催

対象 山梨大学・山梨県立大学教職員、及び学生
株式会社はくばく・シミックグループ社員

申込 二次コード、又はURIから要事前申込

申込締切：1/20
<https://forms.office.com/6GM62909W>

主催・問合せ 山梨大学男女共同参画推進室
TEL: 055-220-8350
MAIL: danp06@yamamashi.ac.jp

共催 シミックホールディングス株式会社
株式会社はくばく



感想

- ・ 実例を挙げてくださりながら、非常に分かりやすい研修でした。RWD 領域の研修は少ないので大変ありがたかったです。
- ・ 実務ではデータを取得する立場ではありますが、データをどのように活用するかを理解していませんでした。
- ・ データはあるだけでは無意味で、どのように活用するかが重要であることを学びました。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●女性研究者 研究報告会・交流会

令和6年度は、ナシダイ諸学融合研究シンポジウムに参加する形で企業との共同研究、地域貢献型研究及び若手研究を行っている山梨大学女性研究者の研究報告・交流会を行いました。研究の紹介や発表を通し、他の研究者や学生、企業の方々との積極的な交流を目的として実施しました。

日時：令和6年12月17日（火） 14：00～16：00

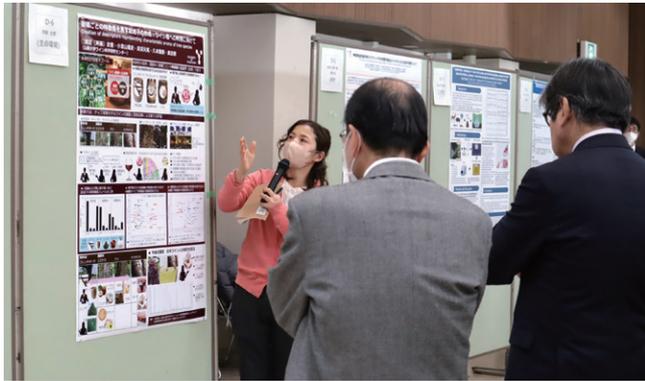
会場：山梨大学甲府キャンパス大学会館

主催：山梨大学研究力強化推進センター

共催：山梨大学男女共同参画推進室、
シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく

参加者：山梨大学教職員・学生、
山梨県立大学教職員、
シミックグループ社員、
株式会社はくばくの社員 他
85名

次第：フリーセッション
開会挨拶
ポスター発表コアタイム
フリーセッション&研究相談会
閉会挨拶



感想

- ・ポスターコアタイムに充てられていた時間帯が、学長や理事、他の参加者へのプレゼン時間となったのが個人的にはよかったです。
- ・ポスターが貼られているだけでは全部の発表者の話を聞くことはまずありませんが、普段はなかなか繋がることのない他学部の研究者のみなさまの研究内容をダイジェストで聞くことができ、学内の研究者の研究分野が多岐にわたることがよくわかりました。

来年度の学内プロジェクトの紹介も行います。

12月17日（火）

ナシダイ諸学融合研究シンポジウム

会場 **大学会館 山梨大学甲府キャンパス内**

13:00 開場
13:00-14:00 フリーセッション
14:00 開会挨拶 山梨大学学長 中村 和彦
14:05-15:00 ポスター発表コアタイム
15:00-16:00 フリーセッション&研究相談会
16:00 閉会挨拶 山梨大学理事（学術研究担当） 茅 曉陽

研究をもっと進めるために必要なこと、なんでも相談してください

事前申込（12/13まで）
<https://forms.office.com/r/WT12nWZj4G>
山梨大学以外からの参加者は事前申込が必須です。
お問い合わせ：研究力強化推進センター ura-tr@yamanashi.ac.jp

シンポジウムの趣旨

山梨大学は、「諸学融合」を通じて学術研究・科学技術の発展及び、大学の知見を社会実用やSDGs貢献に繋げるイノベーションの創出を目的とし、研究プロジェクトを展開しています。本シンポジウムでは、令和6年度の大学のプロジェクト研究者が研究紹介を行うとともに、様々な分野の研究者が一堂に集結する機会とし、本学の諸学融合による研究活動をより一層活性化させることを目指します。

発表者・タイトル一覧

来年度の学内プロジェクトの説明は、スクリーンに常時投影を行う予定です。個別相談も承りますので、会場で気軽にお声かけください。

時間	A. 学内・社会実用研究プロジェクト	B. 本学ベンチャー・産学プロジェクト C. 若手人材育成プラットフォームによる若手研究者支援 D. ナシダイイノベーション推進センター（若手研究者） 共同研究・産学共同研究支援/若手研究者研究支援
14:05	A.1. 月本 久美 先生 (工学) 視覚の認知を「取り出す・見る」技術の開発 A.2. 片岡 貞夫 先生 (生命環境学) 化学薬品製造を次世代に持続可能な生産技術革新の一例「微生物-植物-動物をつなぐ三者間ネットワーク」 A.3. 藤原 正美 先生 (医学) がん診断にAI活用による転写高効率検出検査技術の開発 A.4. 中庭 寛人 先生 (工学) 植物と土壌微生物のシグナルマイクログロブタン因子との関係を先端的手法を用いて解明する A.5. 吉村 孝太郎 先生 (医学) 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた超迅速ウイルス検出システム構築 A.6. 若山 清孝 先生 (生命環境学) 哺乳類のためのアスファルト路面に抗菌殺菌剤の開発	B-1. 古藤田 貴和 先生 (医学) 医療行為の安全性・確実性・有効性を向上させる機器の開発 B-2. 武田 明樹 先生 (工学) 法蘭西・中韓共同国際ヒートポンプの実装事業 C-1. 鈴木 聖太郎 先生 (生命環境学) AIとAIとAIを活用するがん診断補助システム構築と事業化 C-2. 菊原 真由 先生 (生命環境学) AIとAIとAIの活用 - 経営者介入した行動学習 - 新規うつ病治療法開発を目指した基礎的研究 C-3. 島 弘幸 先生 (生命環境学) ラストマイルフォーメーションのペクトル解析によるサッカーゲームの戦術分析 D-1. 石山 謙雄 先生 (生命環境学) 疫物の増殖に関する研究 D-2. 加藤 佳真 先生・代理 池田 隆 先生 (医学) 先端医療研究を促すための産学連携プラットフォーム構築 D-3. 石丸 かよ子 先生 (医学) 電磁場低減ウェアラブルデバイス開発と実用化の検証
14:30	A.7. 浮田 秀樹 先生 (工学) マイクロチップラボナニシヤン A.8. 藤原 孝太郎 先生 (医学) 新型コロナウイルス感染症による運動学習記憶の解明 A.9. 三宅 祥太 先生 (医学) がん治療の実現に向けた腸内細菌叢によるD-OHd分子メカニズムの解明 A.10. 八幡野 亮子 先生 (工学) 自然・農産物産品から見た生産者と消費者の健康意識の解明とその展開 A.11. 吉野 祐太 先生 (医学) 腸内細菌叢と免疫系・口腔癌 腸内細菌叢に関する基礎研究によるがん治療法の開発 - 腸内マイクロバイオームと免疫系との関係 -	B-3. 藤原 貞孝 先生 (医学) 腸内細菌叢をターゲットとしたがん診断補助システム構築と事業化 B-4. 田中 雅夫 先生 (生命環境学) AIとAIとAIを活用するがん診断補助システム構築と事業化 B-5. 高田 聖太郎 先生 (医学) AIとAIとAIを活用するがん診断補助システム構築と事業化 D-4. 武田 祥子 先生 (医学) 先端医療研究を促すための産学連携プラットフォーム構築 D-5. 藤原 亮子 先生 (生命環境学) コラーゲンとAIの活用によるがん診断補助システム構築と事業化 D-6. 藤原 貞孝 先生 (生命環境学) 腸内細菌叢と免疫系・口腔癌 腸内細菌叢に関する基礎研究によるがん治療法の開発 - 腸内マイクロバイオームと免疫系との関係 - D-7. Niva Sitapit 先生 (工学) Environmental DNA Analysis for Assessing Micro- and Macro-organisms and Identifying Indicator Species in River Environments
15:00		

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

山梨大学が行った取り組み

● 地域貢献型/若手研究者 研究支援

本事業では、「女性研究者育成」を連携の中心に置き、産学間の活発な人材交流によって、女性の能力を生かしたイノベティブな研究を推進する環境を創設し、地域人材の育成と産業活性化への貢献を目指しています。

取り組みの一つとして、地域活性化につながる研究を進めている女性研究者あるいは、自由な発想で独創的な研究を進める若手女性研究者を対象とし、令和6年度は公募により研究支援を行いました。

若手研究では、支援を行ったSthapit先生の研究が国際会議ICLEE2024 (14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering)において、優秀発表賞を受賞しました。

研究支援 (計5件)

研究者	所属	分野	研究テーマ
武末 裕子	教育学域 教育実践創成講座	地域貢献型	山梨県の特徴を活かしたアクセシビリティ教材活用研究～大学・教育現場・公共施設でのインクルーシブ絵本・地域題材を活用した国際交流～
斉藤 史恵	ワイン科学 研究センター	地域貢献型	甲州ワインに適するワイン樽用材の探索
石山 詩織	生命環境学域 地域食物科学科	若手研究	代謝性過剰炎症反応による臓器障害におけるEPAによる抑制機構の解明
向井 真那	生命環境学域 環境科学科	若手研究	コナラ二次林の広域分布理由を地下部の栄養獲得戦略から考える
Sthapit Niva	工学域 土木環境工学系	若手研究	Environmental DNA Analysis for Assessing Micro- and Macro-organisms and Identifying Indicator Species in River Environments (河川環境評価のための大型種及び微生物を利用した環境DNA解析)

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

● Coの花フェローシップ

Coの花フェローシップ制度は、将来を担う創造性に富んだ女性研究者の育成に向け、研究に専念できる環境の提供とキャリアパスの確保を支援するもので、大学院博士課程に在籍する優秀な女子学生に対し、研究専念支援金及び研究費が支給されます。

【令和6年度Coの花フェローシップ支給対象学生】

	所属	氏名	研究計画	指導教員
後 期	大学院医工農学総合教育部 博士課程 ヒューマンヘルスケア学専攻	今井 崇恵	文部科学省の調査によると 小学校教員の一日の休息時 間の合計は約6分である。ま た、精神疾患による休職者は 5482名となり、近年、増加 傾向にある。本研究では、休 息時間の短さが心身に与える 影響に関するアンケート調査 を行い、統計学的手法を用い て分析を行う。	医学域看護学科 教授 宮村 季浩

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

● 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞

山梨大学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資するため、「山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞」を平成28年度に創設しました。以降毎年度受賞者を決定し表彰してきました。この度、同賞受賞者を決定したことに伴い、9回目となる表彰式を以下のとおり挙行いたしました。

表彰の対象者は本学に所属する女性研究者（大学院生・研究員を含む）または本学の女性研究者を研究代表者とする研究グループで、次の各号に掲げる賞の区分に応じて行います。

優秀賞 教育研究のマネジメントにおいて優れた業績を挙げたと認められる個人、又は、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる個人、若しくは研究グループ

※個人又は研究グループの研究代表者には、大学院生及び研究員は含まない。

奨励賞 40歳未満の若手研究者又は博士取得後8年未満（ただし、産休・育休期間を除く）で、優れた研究成果を挙げることが期待されると認められる個人、若しくは研究グループ

日時：令和6年12月9日（月） 13：00～13：30

会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール

次第：列席者紹介

受賞者紹介

各賞授与

学長祝辞

受賞者挨拶

記念撮影



受賞者：優秀賞 工学域電気電子情報工学系 教授 福本 文代

「コンピュータの言語理解による豊かな未来社会の形成」

奨励賞 医学域臨床医学系 助教 原井 望

「糖尿病の早期発見を目指した歯科医院での血糖値測定研究」



(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

●女性研究者と中村学長との懇談会

「女性研究者と中村学長との懇談会」を昨年度に引き続き山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞表彰式終了後に開催しました。本年度の山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞受賞者、本事業で研究支援に採択された女性教員、男女共同参画推進委員と中村 和彦 学長、茅 暁陽 理事（学術研究・グローバル推進）、小林 明 理事（男女共同参画・特命）、志村 結美 室長により、女性研究者を取り巻く研究環境や女性研究者の活躍などについて意見交換を行いました。

懇談会では、男女共同参画推進について大学が取り組んでいることへの意見や育児・介護の学内制度への要望が多数出されました。また、学長から国立大学協会での取組や現状についての説明がありました。

和やかな雰囲気の中、活発な意見交換の場となりました。

日 時：令和6年12月9日（月）13：30～14：45

会 場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール

次 第：自己紹介

国大協事業紹介（学長から）

研究環境について意見交換

女性（研究者）活躍についての意見交換



(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

●事業実施組織 (Yamanashi Network for Diversity & Innovation) による委員会 第三者機関による事業評価委員会 (合同開催)

日時：令和6年8月6日 (火) 13:30~14:45

方法：学内委員 - 山梨大学甲府キャンパス本部棟5階 第一会議室
学外委員 - Zoomによるオンライン開催

参加者：

事業評価委員	飯野 奈津子 氏 (一般社団法人 日本専門医機構 理事) 古澤 善彦 氏 (山梨県多様性社会・人材活躍推進局長) 佐久間 悟 氏 (株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長)
事業実施委員	代表機関： 山梨大学 志村 結美 (男女共同参画推進室長) 市川 満 (理事 (財務・施設・産学官連携)) 小林 明 (理事 (男女共同参画・特命)) 山村 裕美 (男女共同参画推進室 特任助教) 共同実施機関： シミックグループ 金丸 恭子 氏 (コンプライアンス部長) 菊池 桜 氏 (ヘルスケアプロダクションカンパニー Co-Creation事業本部 担当部長) 株式会社はくばく 田邊 征治 氏 (取締役管理本部長) 小林 敏樹 氏 (市場戦略本部開発部課長)

- 次第：1. 参加者自己紹介
2. 事業の評価について
① 評価書記載方法について
② 令和5年度事業報告 連携して実施している全体の取組及び山梨大学の取組
③ 令和5年度事業報告 各共同実施機関 (シミックグループ、(株)はくばく) の取組
④ 取組・成果に関する質疑応答
3. 今後の事業実施について
4. その他、意見交換

(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

令和5年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業評価委員会 評価結果

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業に関し、令和5年度の取組の評価と今後の改善点を明らかにするために、外部評価委員による評価を行った。

実施期間：令和6年8月6日（火）～令和6年8月23日（火）

実施方式：各種資料（令和5年度事業報告書、News Letter Vol.11～14、令和5年度ロールモデル集、企業調査報告書、説明スライド、外部評価委員評価表等）を送付の上、8月6日（火）13:30からのWebによる事業評価委員会において、事業報告と質疑応答、意見交換を行い総合的に評価

事業評価委員：

- ・飯野 奈津子 氏 一般社団法人 日本専門医機構 理事
- ・古澤 善彦 氏 山梨県多様性社会・人材活躍推進局長
- ・佐久間 悟 氏 株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長

評価概要：総合評価、取組内容、目標達成度、連携した取組とその成果および各機関の取組とその成果について、S、A、B、Cの4段階で評価が行われた。いずれの項目においても、A以上の評価を得た。

また、評価委員からは、「補助金が終了する中、関係機関の相互間の努力と研鑽によって、失速することなく持続可能な取り組みになりつつあるということを感じることが出来た。」、「国からの助成金による支援が終了した後も、事業を継続発展させている点を評価したい。」および「在職者に対する支援までを長期のスキームで捉え、人材育成にしっかりと取り組んでいること、共同実施機関2社がダイバーシティ&インクルージョンを掲げて働き方改革に積極的に取り組まれていることに大変感銘を受け、また心強く感じた。」などの評価を受けた。また、「本施策を現在の枠組みにだけに捉われずに、まずは山梨県内の行政と企業群との間に横櫓を刺し、横断的な組織体制の構築を目指してほしい」、「マスコミなどを活用した、情報発信力の強化」などアドバイス・コメントを頂いた。

表1：【評点分布】

	評点	総合評価	取組内容	目標達成度	連携した取組	各機関の取組
S	5	1	3	1		
A	3	2		2	3	3
B	2					
C	0					
平均点		3.7	5.0	3.7	3.0	3.0

〈評価基準〉 S：計画を上回って実施している、A：計画を十分に実施している
B：計画を十分に実施していない、C：計画を実施していない

図1：令和5年度 事業評価委員会評価結果

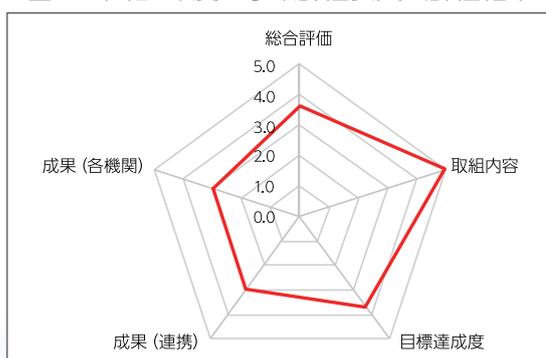
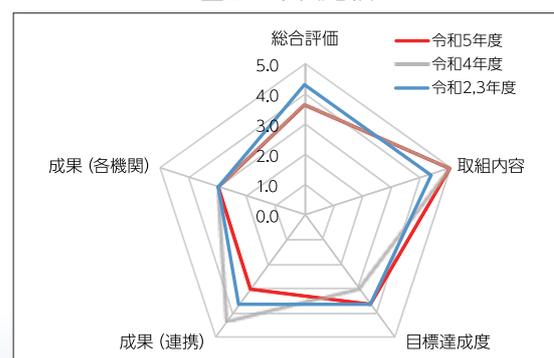


図2：年次比較



(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

山梨大学が行った取り組み

● ロールモデル集「ナシダイResearchers」の発行

山梨大学男女共同参画推進室では、学生のみなさんが研究職に興味を持ち、将来の職業選択の幅が少しでも広がることを願って、山梨大学の研究者を紹介するロールモデル集「ナシダイ Researchers」を作成しています。令和6年度発行のVol.12では「研究者になったきっかけ」や「山梨大学を選んだ理由とその魅力」、「おすすめの〇〇」、「中高生の皆さんへのメッセージ」に加えて、1日の生活実態と「ワークライフバランス」について、5名の先生方および4名の大学院生にご紹介いただいています。本冊子は、山梨大学教職員・学生のほか、山梨県内の中学校、全国の高校、他大学等へも配布しております。



Vol.12
(令和7年2月発行)



シミックホールディングス株式会社が行った取り組み

●自発的社員強化ワーキングチーム「TEAM ACE」による「コーチング1on1研修」の拡大

社会の結節点となるために、新しい価値とWellbeingを対話によって生み出すために、CMICグループ横断型コミュニケーションを実施することになりました。

●「輝く人の未来を照らす！女性の健康を守るための子宮頸がんプレスセミナー」を開催

子宮頸がんの現状とこれからについて学ぶメディア向けセミナーを開催。（令和6年4月9日(火)）

●ペットが病気になっても充実した生活を送るために、シミック、animoがアニコムと基本合意書を締結（令和6年4月15日(月)）

シミックホールディングスとanimoは、日本最大手のペット保険事業などを展開するアニコムとは、「ヒト医療と動物医療の垣根を超えたヘルスケア・エコシステムの構築（One Health Platform）」に向けて連携をはかって参ります。

●第16回 中村キース・ヘリング美術館 国際児童絵画コンクールの作品募集 （令和6年4月20日～9月16日）

シミックグループは、子供たちの未来への希望と愛・平和を願うキース・ヘリングの遺志を受け継ぎ、2009年より行われている「中村キース・ヘリング美術館国際児童絵画コンクール」への支援を通じて、異なる人種と宗教、文化と環境を理解し、子供たちが自由にグローバル社会へはばたく機会を与えることにより、広く社会に貢献していくことを目的にしています。

●e-ラーニングシステム（Compliance Wire）にてトレーニングを実施

「ダイバーシティ&インクルージョン」のトレーニングを、シミックグループ全従業員を対象として、実施しました。（令和6年5月）

●伊勢真一監督作品最新作 「大好きー奈緒ちゃんとお母さんの50年ー」上映会

難治性てんかんだらべ症候群と知的障がいをもつ「奈緒ちゃん」（西村奈緒さん）とその家族の50年間におよぶ「いのち」の記憶を撮りためたドキュメンタリー映画“奈緒ちゃん”シリーズ最新作を社内上映し、気づきや共感を意見交換する交流の場を伊勢監督と設けました。（令和6年6月28日(金)）

●グループ内横断のダイバーシティ&インクルージョンコミッティ、RO-DE&I（Respect each Other, Diversity, Equity & Inclusion）の活動紹介と交流

介護、育児、発達特性、働き方、ジェンダー、LGBTQ+、環境等々、様々なテーマで情報発信や、オンラインイベントを継続しています。（2024年8月）

●南ブラジル日系移住者巡回診療プロジェクト

シミックグループが支援しているブラジル日系人医師 森口エミリオ秀幸氏の「南ブラジル日系移住者巡回診療プロジェクト」の活動報告会と懇親会が開催されました。社内約90名が参加し、交流を得ました。（令和6年10月22日(火)）

●南ブラジル日系移住者巡回診療拠点の南日伯援護協会本部債権のクラウドファンディング設立

州都ポルト・アレグレにある、南日伯援護協会本部が2024年4月末から続いた大雨洪水により、1か月以上水没し、甚大な被害を受けたことに対する復興支援を募りました。

株式会社はくばくが行った取り組み

●論文掲載

査読付雑誌『Frontiers in Nutrition』（11:1434150(2024)）に、クロスアポイントメント教員である丸山が筆頭著者として執筆した報文「High barley intake in non-obese individuals is associated with high natto consumption and abundance of butyrate-producing bacteria in the gut: a cross-sectional study」が掲載されました。

●学会発表

日付：令和6年5月26日(日)

会場：アクロス福岡

学会名：第78回日本栄養・食糧学会大会

クロスアポイントメント教員である丸山より、「大麦摂取が2型糖尿病モデルMEMマウスにおける感染時の炎症応答に与える影響：リポ多糖投与に対する免疫応答の評価」との演題で学会発表がなされました。

●女性研究員のフルリモート勤務開始

はくばくの事業所より遠方に居住し育児休業を取得していた開発部研究開発課の女性課員の復職に伴い、就業制度の見直しを行い、同研究員のフルリモートでの勤務体制を確立、運用を開始しました。（令和6年度から）

●「健康経営優良法人2024」に認定

経済産業省・日本健康会議が主催する健康経営優良法人認定制度にて、「健康経営優良法人2024」に認定されました。今回の認定により、2022より3年連続の認定となりました。

●「山梨えるみん」に認定

女性活躍社会の実現に向けて、女性活躍に係る職場環境の整備等に積極的に取り組む企業を山梨県が独自に認定する「山梨えるみん」に認定されました。（令和6年5月9日(木)付）

●2024年度女子栄養大学栄養科学研究所大学院研究奨励賞受賞

はくばく開発部製品開発課の女性課員 大和田が、学生時代に進めていた研究内容が評価され、女子栄養大学栄養科学研究所の「研究奨励賞」を受賞しました。（令和6年7月11日(木)）

●「リテラシー&マネージメントスキルUPセミナー」開催

「女性だけでなく男性にも知って欲しい女性の健康」と題し、講師に大塚製薬株式会社 家原光平氏を招き、全社員を対象としたセミナーを対面及びオンライン形式にて開催しました。（令和6年7月12日(金)）

●山梨県プレコン健診事業への参加

全社員に対し、山梨県プレコン健診事業（<https://www.pref.yamanashi.jp/kosodate/preconkensis.html>）の案内を行い、複数の女性社員が同制度を活用した受診システムを利用しました。（令和6年10月から）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型） 令和6年度事業報告書

代 表 機 関 国立大学法人山梨大学
共同実施機関 シミックホールディングス株式会社 株式会社はくばく
発 行 令和7年3月
作 成 国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室
住 所 〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
電 話 055-220-8350
F A X 055-220-8351
E - m a i l danjo@yamanashi.ac.jp
U R L 男女共同参画推進室 <https://danjo.yamanashi.ac.jp/>
ダイバーシティ事業 <https://danjo.yamanashi.ac.jp/diver/>



男女共同参画推進室



ダイバーシティ事業

「ダイバーシティが牽引する地域活性化とイノベーション～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会～」の令和6年度事業報告書の著作権は、国立大学法人山梨大学男女共同参画推進室に帰属します。よって、本冊子（デジタル加工を含む）の転載および二次利用に際しては、男女共同参画推進室の許諾を必要とします。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
YAMANASHI NETWORK
FOR DIVERSITY & INNOVATION